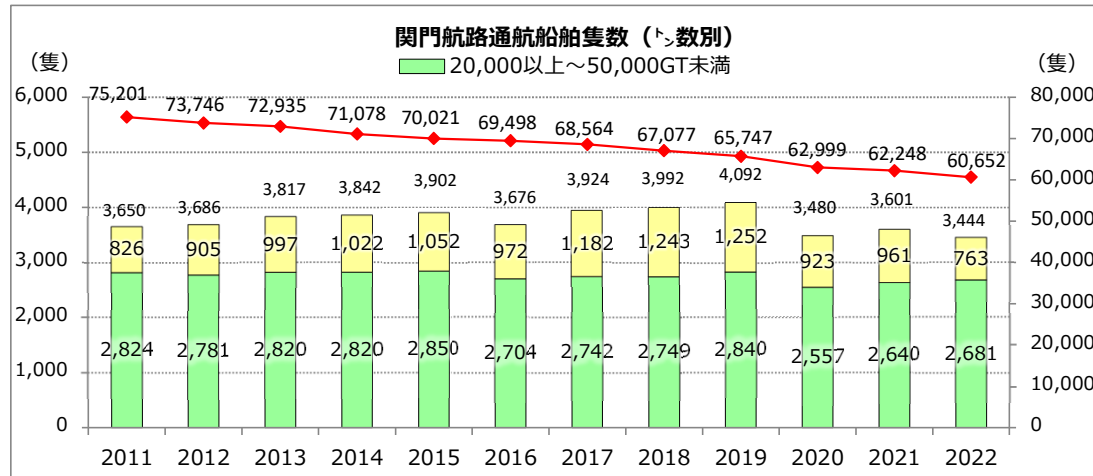
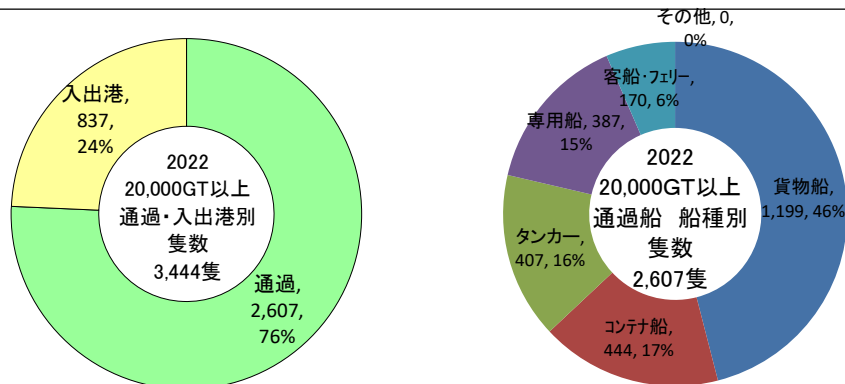


◆関門航路 航勢詳細(2022年確定値)

- 関門航路を通航(通過・入出港)する500GT以上の船舶は減少傾向であるが、20,000GT以上の大型船※については微増ではあるものの年々増加の傾向が見受けられる。
 - 2020年の大型船※の減少は、新型コロナウイルス感染拡大の影響と考えられる。
 - 2022年の通航状況は、船種別で貨物船、コンテナ船が約半分を占めている。外内貿別では外貿が55%、通峡・入出港別では通峡船が70%を占めている。
- ※現行の航路水深-12m(通航可能最大喫水-11.4m)では満載での通航は困難なものを示す。



- 20,000GT以上の大型船で見ると、通過が約76%を占めており、貨物船・コンテナ船が約63%を占めている。
- 物流コスト削減をはかるため、関門航路を利用することで輸送距離と時間の短縮を図っている。



● 通航船舶調査の条件(対象船型:500GT以上)
 ・通過船舶 : 24時間
 ・入出港船舶 : 24時間

